

## 過年度学部卒業生へのアンケート概要報告

### 【目的】

・本調査の目的は、本学の教育をより良いものとする目的で、令和2年度卒業生に対してアンケート調査を行った。

### 【方法】

#### 1. 調査対象

・平成29年度に入学し、令和2年度に卒業した学部生。

#### 2. 調査方法

・上記対象卒業生に郵送で依頼文書を送付し、QRコードによるアンケート調査を実施した。

565名に送付したところ、68名の回答を得ることができた。（回答率12%）

#### 2. 調査期間

・令和4年8月10日から令和4年8月26日

### 【結果】

#### 問1.性別

項目	男	女
回答数	44	24
割合	64.7%	35.3%

#### 問2.卒業した学科

学科	回答者数
・体育学科	34
・健康福祉学科	5
・運動栄養学科	15
・スポーツ情報メディア学科	8
・現代武道学科	4
・子ども運動教育学科	2

#### 問3.本学の教育内容はいかがでしたか

項目	1.満足している	2.やや満足している	3.どちらともいえない	4.やや不満である	5.不満である	合計
回答数	18	25	20	3	2	68
割合	26.5%	36.8%	29.4%	4.4%	2.9%	100%

分析結果：肯定的な回答が過半数を占めたが、昨年と比較すると「やや不満である」、「不満である」の割合が上昇した。一定程度の評価は得られているが、より一層充実した教育内容となるように努める必要がある。

#### 問4.本学の施設、設備は充実していましたか

項目	1.充実している	2.やや充実している	3.どちらともいえない	4.やや不足である	5.不足である	合計
回答数	29	19	11	7	2	68
割合	42.6%	27.9%	16.2%	10.3%	2.9%	100%

分析結果：「充実している」と「やや充実している」の合計が70.5%であり肯定的な回答の割合が多く、本学の施設、設備が充実した様子がうかがえるが、昨年度と比較して「やや不足である」、「不足である」の割合が上昇した。施設、設備の更新を適宜進める必要がある。

#### 問5.本学の就職活動支援はいかがでしたか

項目	1.満足している	2.やや満足している	3.どちらともいえない	4.やや不満である	5.不満である	合計
回答数	11	26	20	8	3	68
割合	16.2%	38.2%	29.4%	11.8%	4.4%	100%

分析結果：「充実している」と「やや充実している」の合計が54.4%であり、昨年とほぼ同値であった。本学の就職活動支援は、例年概ね良好な評価を得ているが、年度ごとに評価の改善がみられないため、さらなる取り組みが必要であるといえる。

問6.本学で学んだ知識や経験は現在の職場で活かされていますか

項目	1.活かされている	2.やや活かされている	3.どちらともいえない	4.あまり活かされていない	5.活かされていない	合計
回答数	17	22	12	11	6	68
割合	25.0%	32.4%	17.6%	16.2%	8.8%	100%

分析結果：「活かされている」「やや活かされている」は令和2年度から令和3年度では、9%上昇したものの今年度の調査では6.4%減少している。また、「あまり活かされていない」「活かされていない」は、昨年度より7.8%上昇している。これらは、コロナ禍で学生/教職員との交流の機会や大会や行事等への参加制限により、直接的な学びの機会の減少が影響していると考えられる。

問7.仙台大学を卒業していかがでしたか

項目	1.満足している	2.やや満足している	3.どちらともいえない	4.やや不満である	5.不満である	合計
回答数	31	24	12	0	1	68
割合	45.6%	35.3%	17.6%	0.0%	1.5%	100%

分析結果：「満足」「やや満足」が令和2年度より6%ずつ減少しているが、「やや不満である」「不満である」は1.5%であり前年度よりやや減少している。

問8.本学は、体育・スポーツ及び健康分野を通して、グローバル化の視点に立った教育に重点を置いています。また、教養を供え、人間性豊かな行動規範を培い、専門的知見・技術を身につけた人材を養成することを目的にもしております。卒業時にその力が身についたと思いますか

項目	1.身についた	2.やや身についた	3.どちらともいえない	4.あまり身につかなかった	5.身につかなかった	合計
回答数	14	32	9	11	2	68
割合	20.6%	47.1%	13.2%	16.2%	2.9%	100%

分析結果：「身についた」「やや身についた」が67.7%と前年度より約2%上昇したが「身につかなかった」が67.7%であり、前年度より1.2%上昇している。

本調査の分析

概ね肯定的な意見が多いものの、昨年度よりも否定的な意見が増加した項目もみられた。令和2年度卒業生は4年次にコロナ禍を経験しており、その中での就職活動やオンライン授業の実施による影響がみられたと考えられる。現在はコロナ禍の状況を踏まえた就職サポートや授業が実施されており、これらの状況は改善していくと推察されるが、年次ごとの変化を注視していく必要がある。